

令和4年度 延岡市立旭中学校 学校関係者評価書

段階評価 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

本年度の重点目標

学力の向上	心の教育の充実	健康・安全・体力の向上	夢・自信・誇りの育成
-------	---------	-------------	------------

評価項目	評価指標	学校の自己評価	内部評価	関係者評価	学校関係者評価
学力の向上	1 基礎・基本の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業では従来の取組に加え、ICT等を活用し、基礎・基本の定着を図った。各種調査等でも結果は良好である。 ○ 各検定（漢検、英検、数検等）の受検者が多く、合格者も多い。 ● 忘れ物や家庭学習の指導など、基本的な学習習慣を身につける必要がある生徒もいる。 	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で、生徒が「頑張りたい・できるようになりたい」と思う授業内容や目標が考えられる学校になるとよい。 ・アンケートの「学力や学習意欲が高まっているか」という項目は、生徒・保護者の双方とも低くなっている。 ・授業を聞く態度はおおむね良いが、積極的な取組かどうかは個人差が大きいと感じる。 ・グローバル化が求められる中、ドイツの学校との交流は有意義な経験だったと思う。今後もぜひ継続してほしい。 ・相手に分かりやすく伝える力を付けていく必要があると感じた。 ・富美山地区コミュニティセンターで行われた「夏休み寺子屋勉強会」は、大変良い企画だと思うので、今後もぜひ続けてほしい。 ・検定試験まで、対策や過去問題プリント等を準備してもらってありがたい。
	2 思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思考力・判断力・表現力を高めることをテーマに校内研究を充実させ、相互授業参観週間を設定するなど、全職員で授業力向上に取り組んだ。 ○ 授業において、生徒が説明したり聞いたりする場面を多く設定し、表現力の向上に取り組んだ。 ○ 延岡市キャリア教育支援センターとメンターの協力をいただき、3年間を見据えたキャリア教育を充実させることができた。 ● ICTの効果的な活用について指導者側も把握しておく必要がある。 	3		
	3 指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相互授業参観や、指導と評価の一体化について研究を深め、授業改善を図ることができた。 ● 授業改善の方針を全職員で共通理解するとともに、諸調査結果の分析結果をもとに指導者本人が指導を振り返って改善点を把握していく必要がある。 	3		
	4 学習基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○ チャイム黙想等の学習規律は、生徒による自主的な委員会活動を行うことで十分に定着している。 	4		
心の教育の充実	1 社会性の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校門での一礼や、部活動を通してあいさつや返事等の定着を図った。 ○ 感染症対策のために体験活動を充実させることは難しかったが、内容を工夫することで、行事本来の目的はおおむね達成することはできた。（放送やオンライン会議の実施、体育大会や合唱など動画を保護者へ配信した） ● 授業でのあいさつや返事は全体的によいが、個人差が大きい。 	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来を見据えてやる気を自覚してもらうように指導していただきたい。 ・勉強はもちろん大事だが、心にゆとりをもった本当の幸せを感じる時間、学ぶ時間が必要ではないかと思う。 ・校内では、多くの生徒があいさつしてくれる。 ・校風がよいので大事に伸ばしてほしい。 ・目上の人に対する言動に疑問を感じることがある。人の話を素直な態度で聞く対応ができる生徒に成長してほしい。 ・部活動やボランティア活動（個々の）の参加を積極的に促してほしい。これらを通じて、「人とのつき合い方、社会のルール」等を学んでいく事ができると思います。 ・不登校生徒に関しては、本人の一生に関わることであろうと思われる。学校・家庭はもちろん大変でしょうが、深く粘り強く支援を続けていってほしい。 ・家庭環境が不安定な生徒へのケアは、今後も関係機関とともに続けていってほしい。 ・生徒間の問題は表面に出てこないが、多感な時期なので未然に防げるといいですね。 ・正しい時間の利用法を見出した方々が今後輝けると思います。
	2 自尊感情、人権意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 命を大切にすると週間や人権週間では関連する授業を実践し、生徒の人権意識を高めた。また、保護者へも学級通信等でその内容や生徒の感想を伝えた。 ● 不登校を含め、支援が必要な生徒への対応において学級担任や生徒指導主事の負担が大きい。今後も学校だけで対応するのではなく、関係機関と連携を図る必要がある。 	3		
	3 自己指導能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全職員が共通理解のもと組織的に動き、未然に問題行動を起こさない働きかけを行うことで、生徒・保護者・学校でよりよい関係をつくることができた。 ● 感染症対策のこともあり、集会活動など自治的な活動を十分に行わせることができなかった。日頃から主体的な委員会活動を行わせる必要がある。 	3		
	4 人間関係の基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月の生活アンケート教育相談を行うことで、迅速な対応ができた。スクールカウンセラーや関係機関との連携により、不登校生徒について家庭も含めた支援を行った。 ○ コロナ禍の中でも最大限の工夫を行い、校外ボランティア等に参加させることができた。 ● 家庭環境が不安定な生徒への対応として、スクールカウンセラーや関係機関との連携を今後も継続する必要がある。 	3		
健康安全・体力の向上	1 体力や運動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍の中で、体育的行事や部活動等の実施方法を工夫し、体力の向上と健康への意識を高めた。 ○ 部活動では限られた時間で活動方法を工夫し、体力・技術の向上を図った。 ● 12月～1月にかけて、新型コロナ感染や濃厚接触の生徒が多かった。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍を経験できた事は、将来的に意義のあることだと思うので、正しい実践を行ってほしい。 ・コロナ禍の影響でできないことも多いと思いますが、更なる創意工夫で乗り切っていただきたい。 ・全体としては、旭中の生徒は素晴らしいと思います。これからも学校、家庭、地域の人達共々、子どもたちを見守り育てていきますように。 ・防災学習を参観して、学年が上がるほどグループ内での意見交換や作業が活発であるように感じられた。 ・今年度も部活動で優秀な成績を収めているが、HP等で情報発信していただけるとありがたい。
	2 望ましい生活習慣の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 性教育を年間計画に位置づけ、養護教諭と連携して実施することができた。 ○ 感染症対策について、保護者の方々の理解もあり、学級・学校閉鎖はなかった。また、養護教諭が発行する保健だよりで、虫歯治療等についての啓発活動を行い治療率が上昇した。 ● スマートフォンなどの利用で生活のリズムが崩れがちな生徒もおり、家庭への啓発も必要である。（今年度は保護者対象の講演を実施した。） 	4		
	3 安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防災教育は、感染症対策で縮小した活動になった学年もあったが、地域の方々の協力で、各学年で充実した活動ができた。 ● 危機管理マニュアルの確認、見直しを適宜行う必要がある。 	4		
	4 食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生も入学当初からすると給食準備の時間が短くなり、十分な食事時間を確保できた。 ○ アレルギー除去食で個別面談を行い、適切に対応した。 ● 家庭や小学校とも連携し、食事の際のマナー指導を行う必要がある。 	3		
夢・自信・誇りの育成	1 キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外部人材の活用や職業調べなど、将来の目標を考えるきっかけとなった。 ○ キャリア教育支援センターのコーディネーターと連携を図り、各学年に応じた取組を行うことができた。 ● キャリアパスポートの効果的な活用について考えていく必要がある。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・康芝園「ふれあい桜」の広場の草刈りボランティア活動は定着したと思う。生徒は、自分たちの活動が地域の方々に喜んでもらっていることがうれしいと感じている。地域住民と学校が少しずつ近づいているように思う。 ・各自の能力、特性を活かし社会の一員として世の中を支えてほしい。 ・HPの更新が少し鈍化している感じがする。改善し評価された事項は維持継続していただきたい。 ・キャリア教育の結果を評価し、来年度以降の改善に生かしてほしい。 ・はげまし隊の皆様が子供たちの社会性を広げ勇気をくださっている。
	2 保護者・地域との連携充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級通信やホームページ、新聞掲載記事、また、校門の掲示板等を通して、旭中の教育活動を保護者や地域に発信することができた。 ○ コロナ禍ではあったが、可能な限り、はげまし隊、社会人メンター、外部講師などに支援いただき、充実した教育活動を進めることができた。 ● ボランティア活動には、学校全体として捉えた際は、活動に対して積極的だが、生徒個々でみると参加への意識の差は大きい。 ● 部活動の地域移行を見据えた連携を図っていく必要がある。 	3		